

今年度の越冬状況について

(参考)

連携団体等	情 報
旭川	<p>2/4 ツグミ: 例年通り、またはそれ以上の感じで受け止めています。旭川市内のナナカマドは食べ尽くされてはならず、昨日(旭川市内の学校林の樹木V30)も今日(旭岳ロープウェイ旭岳温泉駅C)も例年通りか少し目につく程度で楽しんでおります。旭川市内の道路を走っていても確認できるので、少ないというイメージはあまりありません。 シメ: 個人的にあまり確認しておらず、会員からの情報も今のところ少ない状況です。 ムクドリ: 例年通りで違和感は感じておりません。 ヒヨドリ: 例年通りで違和感は感じておりません。 シロハラ・ミヤマホオジロ・ジョウビタキ: 旭川では旅鳥なので見かけなくて当然。</p> <p>キレンジャク(旭川の冬鳥かつ旭川市の鳥)・ヒレンジャクは確認情報が会員情報が3件と異常に少ない年となっています(2012/02/04現在)。今年はずれ年と考えています。このキレンジャクは年のよって確認状況が非常に差があるので心配しておりません。昨年は当り年で2010/11月下旬から2011/04まで楽しみました。</p>
室蘭	<p>2/1 室蘭市が中心に位置する西胆振の地域でも冬鳥は非常に少ないです。もともと本州に比べると、冬鳥は少ないのですが、それでも今の時期ツグミ、シメ、ウソなどは必ず見られました。しかし、今年はツグミはときどき1、2羽見かける程度。ミヤマホオジロ、ジョウビタキ、カヤクグリなどが1、2羽庭に現れたという情報はありますが、山野では留鳥以外は皆無に近い状態です。 札幌市で1月上旬、レンジャク300くらいの群が飛来したという情報があります。当地域にはまだ現れません。また、これまでめったに見られなかったケアシノスリがこの冬はあちこちの海岸で空を舞っています。 ガンカモ類は少し少ないくらいで、大きな変化はありません。 冬鳥だけでなく、昨年、夏鳥も非常に少なかったことが気にかかっています。特にはっきりと感じたのは、毎年マスイチ浜で観察している9月のハチクマ、伊達市有珠海岸のシギチドリ、10月マスイチ浜を渡っていく小鳥の集団とヒヨドリの集団などです。(ミヤマカケスだけは例外で、大移動が見られました)。</p>
やまがた	<p>1/15 いつもなら、まもなくなくなるカキの実もたわわになったままですし、庭木や街路樹のナナカマドなどの実にも一向に来ていません。 例年だと、本格的な積雪のある12月中旬にツグミの群れが里にやってくるのですが、今年はそのようなことがなく、見ても1、2羽。探鳥会でも珍鳥扱いですね。 冬鳥の小鳥類が異常に少ない他、カモ類も平年よりは少ない感じがします。 秋の飛鳥では、冬鳥がほとんど見られず、当初、「遅れていて、かつ平年より少なめ」という認識でしたが、現在のこの状況を考えるとただ単に「極めて少ない」ということだったのかと。</p>
いわき支部	<p>1/15 今年も冬鳥が極端に少ないです。 1月10日の寒波ごろからぼちぼち ツグミ、シメ、アカハラなど見られるようになりました アオジ、カシラダカ、マヒワ、ミヤマホオジロ、ベニマシコ、アトリ、ジョウビタキなどはほとんど見られません。里の民家周りの柿の実食べる鳥がなく熟して落ちてしまう有様です。 どうやら、草木の実が奥山全体に豊富にあり 里にくる必要がないのでしょうか また、ガンカモですが、毎年来る何千羽ものクロガモもゼロで、いつもは来ないコクガンがちらほらあきらかに津波の影響でしょう。(沿岸の海底が洗われ餌がないようですね)</p>
長野支部	<p>1/15 ジョウビタキ: 初認の時期はあまり変わりませんが最初から個体数が例年よりかなり少ないと感じていました。昨年は我が家の周りでも、この時期、常に複数見ることができましたが今はほとんど鳴き声さえ聞けません。千曲川沿いの藪で時々見かける程度です。(鳴き声含め) ツグミ: この少なさは最初から異常と思えるほどです。このあたりでは柿が豊作でかなり木に残っていたにもかかわらず、いまだに食べ切れていません。ムクドリがつつく程度で単独のツグミを見ることはあっても複数でやってくることはほとんどありません。雪が多いのに不思議です。我が家の餌台にもほとんど寄り付きません。昨年に比べたら極端に少ないです。 マヒワ、レンジャク類、シロハラ: いずれも私の行動範囲ではまだ未確認です。</p>
軽井沢	<p>1月13日 特に冬鳥の小鳥類が少ないと思います。 ツグミの数が特に少なく、シメ、オオマシコ・イスカ・マヒワ・シロハラも見えていません。ハギマシコハ20羽程の群れを見たとの情報は得ております。 数は少ないものの、アトリ・カシラダカ・ジョウビタキ・ベニマシコ・ミヤマホオジロ1羽・コクマルガラス2羽には出会っております。ミヤマガラスは当地でかなり多くなっています。 1月18日 浅間山麓を歩いてみましたら、ツグミ・アトリ・ベニマシコ・カシラダカはそこそこ見かけるようになりました。 あちこちで見たものを合計すると、ツグミ30±羽、アトリ100±羽、ベニマシコ10羽、カシラダカ150±羽という感じでした。シメも1羽だけですが出会えました(18日に上田市で2羽確認の情報もありました)。</p>

今年度の越冬状況について

(参考)

南富士支部	1/16 富士山南麓においても冬鳥全般がとても少ないように感じています。 今日の探鳥会(静岡県富士市)で、ようやくツグミ、シロハラの小さな群れを確認しました。ひよっとしたら到着したばかりだったかもしれません。でも、例年楽しませてくれるトラツグミやルリビタキなどの姿は見あたりませんでした。 ガンカモ類のカウント調査では、減少傾向が続いているようにも思えますが、今季が特別に少ないとまでは言いきれません。オオバンは増えているみたいです。
静岡支部	1/13 冬鳥少ないです ツグミは年末まで2回ほどしか確認できませんでしたが 正月になり小群をようやく確認しました。留鳥であるカワラヒワも少ないです。 ガンカモは昨年より若干多くなっています オシドリが660+と多いです。 小鳥が全体的に少なく感じています
愛知県支部	1/13 愛知県でも今頃はそこらじゅうで確認できていたツグミですらほとんど確認出来ず、シロハラやミヤマホオジロは今季未だ見ていません。ベニマシコが確認出来ていますが数が少ないです。 愛知県支部探鳥会記録より ヒヨドリ、メジロは一年前と大差なく、他の鳥は全体に少なめです。特にジョウビタキ、シロハラ、ツグミは顕著に少ないです。特にツグミに至っては141羽だったものが7羽ともはや絶滅??に近い
奈良支部	1/13 奈良盆地でもツグミの初認は例年より遅く11月の中ごろでした。しかも数は非常に少ないです。アオジも少ないです。留鳥のカラ類やセキレイ類も非常に少ないです。それに比べてカモ類は例年とそう変わることもなく飛来しているようです。 1月28日 奈良盆地の東方、山の辺の道で、ツグミ約200羽の群れを観察しました。 到着したばかりか、柿畑を飛び上がったり下りたり、なんとなく落ち気のない様子でした。
京都支部	2/1 定例調査地の八幡市三川合流、定例探鳥地の比叡山ではツグミの群れ(何れも100以下)を確認しているのですが、京都御苑等他の探鳥会では他支部の方々とはほぼ同じような状況です。 カモ類は少ないけれど例年通り、減少傾向は止まりません。
大阪	1/30 大阪も野鳥が少ないです。大阪城公園にも野鳥がほとんどいません。 濠には少しカモ類がいるだけです。私も30年以上野鳥観察していますがこんなに野鳥が少ない冬を経験したことがありません。 私の近所にサザンカの垣根があり、今花を咲かせています。これまでならそこにメジロ、ヒヨドリがきて写真を撮ったりして楽しんでいたのですが今はサザンカの花がむなしく咲いているだけです。 フィールド淀川毛馬の大堰にはこれまで数千羽のホシハジロ、キンクロハジロがいたのですが今は全くいません。ビドリガモとオオバンが少しいるだけです。大阪城公園の御堀にもいる事はいますが探さないと見つからないような状態です。 冬にわたってくる冬鳥はどうか、昨年は冬鳥の当たり年でアトリ、マヒワ、ハギマシコ、ツグミ、レンジヤク類、ジョウビタキとかなりの羽数で渡来しエキサイトしたのですが今年は不作というかとにかくいないのです。
愛媛県支部	1/14 ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ等小鳥類が非常に少ないです。10月頃、標高の高いところではアトリが多く見られましたが、平野部ではアトリも観察されていません。 メジロ、ヒヨドリも平野部では少ないです。山では様々な植物の実が非常に豊作です。 カモ類、タカ類は例年並かやや多い感じです。
筑後支部	1/13 メジロを初め、ツグミ、シロハラはほとんどいません。 ただ、有明海福岡県沿岸のカモ類(オナガガモが主で、マガモ、ヒドリガモなど)と、筑後川中流域のカモ類(ヒドリガモ、マガモ、カルガモ)については、昨年とあまり変わらないようです。 1/31 1月末の現状ですが、やはり小鳥類は少ないです。シロハラは、時々は見かけるようにはなりましたが、数は2割以下です。ツグミは私自身はまだ確認していません。イカル(筑後支部の鳥ですが)の声も聞きません。
北九州	冬鳥で少ないのは、ツグミ、シロハラ、アオジ、ルリビタキ、ジョウビタキ等です。ジョウビタキについてはトライ後見られましたが、11月になり見かけなくなった。ツグミは一部の山間部で1月20日頃数日50羽前後の群れを観察したのみ。 留鳥で少ないのは、メジロ、ヒヨドリ、シジュウカラ、カワラヒワ等。
筑豊	田川市の自宅での観察 昨年:ヒヨドリ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ 今年:キジバト、ジョウビタキ(一度姿を見せたがすぐに去る)

今年度の越冬状況について

(参考)

<p>鹿児島</p>	<p>1/14 鹿児島でもメジロ・シロハラはほとんど、ツグミは全く観察できていません。 11月下旬には、シロハラ・アカハラの群が鹿児島市内の公園で観察されましたが、その後は本当にみられることが少なくなっています。 ヒヨドリは、例年見られる渡りをしている群を一切観察していません。ムクドリ・ハクセキレイも例年なら大きなねぐらを作る場所でも、今年は数が極端に少なくなっています。 ハイタカはとても数が多いようで、市内でもあちこちで見かけられています。</p>
<p>豊田市自然観察の森</p>	<p>シロハラなどがかなり少なかったものの、年末に雪が降ってからは個体数が増えています。 もともとそれでも例年よりは全体的に少ない印象です。 かなりアバウトな話ですが、地元の西三河野鳥の会の会員どうしでは、ノスリとモズが多いものの他は全体的に少ないという話が出ています。 ジョウビタキやルリビタキも少なく、マヒワ、ウソはまったく見られずといった、寂しい冬になっています。</p>
<p>姫路市自然観察の森</p>	<p>1/14 姫路の観察の森でも冬鳥は例年になく少ないという印象です。 <毎年見られる冬鳥> ・シロハラ・・・少ない。年が明けたころから増えることが多いが、今季はまだ少ないまま。 ・ツグミ、ルリビタキ・・・少ない ・ジョウビタキ・・・少ない。昨年も少なかった ・アオジ・・・例年並み <見られない年もあるが、おなじみの冬鳥> ・シメ、アトリ、マヒワ、キクイタダキ、アカゲラ、トラツグミ・・・まだ確認していない 留鳥については、目だって少ないと感じる種は今のところありません。</p>
<p>福島小鳥の森</p>	<p>アオジ、ルリビタキ、カシラダカはある程度見られるものの、マヒワ、シメ、アトリ、シロハラは例年に比べかなり少ない印象です。ツグミはほとんど見られません。冬鳥は全体的に少ないように感じます。 シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、カワラヒワなどは例年通りです。</p>